

祝 辞

卒業生の皆さん、ご卒業まことにめでたうございます。私は大阪観光大学同窓会会長の濱元でございます。本日は大学を卒業した OBOG を代表致しまして、一言ご挨拶させていただきます。

大阪観光大学同窓会は 2000 年に開講した前身、大阪明浄大学および大阪観光大学の卒業生を中心に構成しております。学校法人が 100 周年を迎える今、同窓会も大きな節目を迎えようとしております。今後は今日、ご卒業される皆さま方にも何かとご協力をお願いすることが多々あるかと思えます。その際は何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、みなさんもお承知のとおり、本学は、みなさんの在学中に大きな困難に直面することになりました。ですが、みなさんの学びに対する思い、またそれを支える教職員の方々の尽力が認められ、再建、再生の道を歩み始めていることは、私たち同窓会としても、みなさんと同じく安心と喜びを感じています。ここにご尽力いただいた方々に深く御礼申し上げます。

今回の出来事を考えたとき、私は 2006 年に大学の名称が変更されたときのことを思い出しました。

過去に大学名称が大阪明浄大学から大阪観光大学に変わるとき、私はすでに大学を卒業しておりました。

先程も申し上げたように、大阪観光大学は 2000 年に大阪明浄大学として誕生しました。当時はまだ観光学部だけしかなく、同じキャンパスには大阪明浄女子短期大学がありました。2006 年に大学名が大阪観光大学に変わろうとしたとき、我々 1 期生は卒業してまだ 2 年しか経っておらず、働くことの楽しさより、働くことの厳しさを受け止める、そんな時期でした。学校名称が変わるときいたとき、私たち卒業生の心には、新しい大学に期待する、そんな気持ちと一緒に、どこか、どこか寂しい風が心に吹いたことも事実です。

しかし、大阪観光大学を卒業しようとも、大阪明浄大学を卒業しようとも、同じキャンパスで学んだ友人、先生方、事務職員の皆さま方、その思い出までもが変わることは絶対にありません。

いま、大学を先に卒業した OBOG は観光業界のみならず、多方面で活躍をされています。今年も卒業生が誕生すると聴き、そのことを喜ばない先輩など、いるはずがありません。みなさんが社会に出て、何かの困難にぶち当たったとき、OBOG はすでにその困難を突破して

いるはずで、それは皆さんと同じキャンパスで学んだことが活かされているからです。もし、皆さんが何かの困難により立ち止まる時、この大阪観光大学で学んだことを思い出して下さい。もちろん、それですべてが解決されるとは断言できません。解決できないことの方が多いかもしれません。しかし、この大阪観光大学で経験したことは決して無駄にはならない、少しは自分の人生にプラスになる、このことは OBOG を代表して私がお約束いたします。

いま大学3年生の在学生の皆さんは来年、同じように大学を卒業されます。もちろん、彼らも何かの困難に立ち止まるときがくるはずで、そのとき、今日の私のように、「大丈夫、大学で学んだことは絶対に無駄にはなっていない」、そう言ってあげられるような OBOG になってください。私と同じように困難は必ず解決できることを彼らに教えてあげてください。みなさんはそう言えるようなご活躍ができるということを信じ、また、できれば困難にあたらない幸せな人生を送れますことを祈念し、卒業お祝いのお言葉とさせていただきます。

本日はまことにおめでとうございます。

2021年3月18日 木曜日
学校法人明浄学院評議員
大阪観光大学同窓会会長
濱元洋行